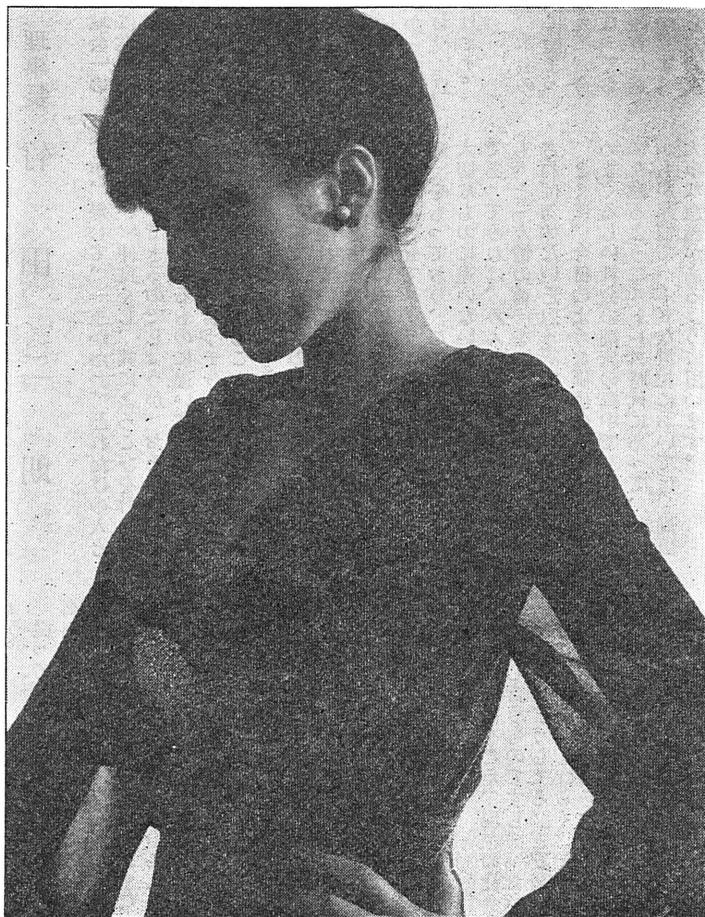


# 白城合通信



No.10

# 快活な声をかけ合おう

理事長 竹田一朗



「白城会」の理事長に推され  
ておりながら、就任以来、これ  
といったお役に立つてないことを、先ず始め

にお詫び申し上

げます。

メンバーの個々の皆さんとは、常日頃大変親しくしていただいておりますが、いざ改まつて組織としてのサービスという点から考えますと、何一つご満足のいくようなお役に立つてはいないと自責の念にかられています。

何卒、ご寛恕下さい。

しかし、よくよく考えて見ますと、本会のメンバーは明治十三年、景福寺時代に始まつて、當々九十三年間、毎春着実に増えて、今日では約一万四千名という大世帯になっておりまして、これでは正直なところ、時宜に適った事業は大変であることは確かです。ただ、私はこんな事を念願しながら、お役を引き受けているにすぎません。

この地球上には三十数億に及ぶ人間が生きていて、それぞれの人生をおくっている訳で

すが、果して、一生かかってどれだけの人と知り合い、仲良くし、共によろこびを分ち合うことができるのでしょうか。おそらく、それは全く微々たるものに違いないし、下手すれば、折角、知り合うチャンスに恵まれていながら、友誼を深めることができないで終つたりすることにすらなりかねない。

その意味で、白城会の共通の場は、どんなに世代が離れていても、教育制度が變つてい

ても、同じキャンパスに集い、同じ青春の想い出をもつ者同志によって組織され、感激に頬を紅潮させてスクラムを組んだ共通の「学窓」をもつており、これは何物にも代え難い大切なものの違いないし、れっきとした履歴であつてみれば、みんなの合意を結集して、もつと「友情の輪」をひろげることに精を出さねば勿体ないと思う訳です。

とくに、今日のような価値の多様化時代、めまぐるしい社会の潮流の渦中で、心身共にスリ減るようなストレス時代にあって、何かもが非情でハードな世相においては、尚更大事な意義があるように思います。

従つて、世代のズレや、制度の違いによつて「共通の場」を見失うような不幸はなんど

くあります。

今年も又、夏の総会が近づいてきました。

何はさておいても、参加して一足とびに「学生」にかえり、友に会つて、旧交をあたためようじゃありませんか。

快活な声をかけ合う「白城会」は、まさしくあなたのための催しなのですから。

従つて、私は旧制の姫中出身者と新制の西高出身者との間を埋めるもの有何であるかをお互いによく考え、自戒し、いやしくも世俗的な断絶の隙間風など舞い込まないように、先輩はすんで後輩等の中に入り、話の輪に加わつてもらいたいし、後輩の言を平静に聞き入れ、いたずらに拒絶したり、反発したりしないよう心がけて頂きたいものです。

さらに、各期のタテとヨコの連携を密にして一貫した流れの大系が乱れないよう、十分な配慮を強くぞみたいものです。

要は、かつて「同じ校庭」に学び、青春の汗を流し合つた者のみに通い合う「あの鮮明な同志愛」を、皆んなで大切にしていくこと

いう、極めて素朴な心情に集約されるといつても良いでしょう。

これは世代をこえ、現在の社会的立場をこえて通じ合うものですし、「おい、元気でやつてるか。どうしてる。」と安否を気遣う声で

あり、「やあ、しばらく。元気だよ。」と笑顔でこたえる友情の輪を大きく育てることに外なりません。

何はさておいても、参加して一足とびに「学生」にかえり、友に会つて、旧交をあたためようじゃありませんか。

快活な声をかけ合う「白城会」は、まさしくあなたのための催しなのですから。

## 雑 想

### 学校長 豊 岡 正 見

ごあいさつにかえて、今年の大学入試結果からはじめます。東大八名、京大二七名、阪大二六名、神大六七など国立一期校一七〇、二期校七一、小計国立二四一、公立五二、私立三五二、短大ほか一四の総計五五九という成績でした。例年と比して可もなく不可もなく、ほぼコンスタントな状態であります。中學からの受け入れがいささか下り坂の観なきにしもあらずですので受入れ後はずい分と努力が払われたということになりますようか。

大學の入試がわが國の教育の正常化を阻んでいるか否かは別として、私どもとしては山がある限り越えていかねばならないので、現実を無視してかゝるわけにはいかないのであります。ちょうど今日の朝刊に日教組の教育改革案が報道されていましたが、中教審のだしたもののが正しいか日教組のそれがよいのか、理念と現実とはとくに喰いちがいのあるもので苦しむのはいつも現場だけといったところでしょうか。ともかくも生徒たちの生涯にかかる問題を自分だけの理念で処理することはできないので、入試成績をもつと数的にも質的にも高めていくことが現在のところ私どもの宿命的でありかたではないかと思つております。

県の教育長さんが議会でついこの間、言明

されたような総合選抜制度がかりに五〇年に姫路地方で実施される所したら、またちがつて形で学校の悩みは加重されることだと思えます。同窓会の姿にしても、だいぶ変わったものになつてくるのではないかと思うが、旧制中学の年配の方々と新制高校以来の卒業生の層とのあいだだけでも既にかけ合いにくく、いものを感じられているいま、選抜制度がかわればその中の人に間だつて随分かわつてくることでしょう。同窓会自体の受け入れ態勢もばつばつ考えていかねばならない時期ではないでしょうか。

むかしの講堂でいま格技場として使つている懐しい建物も、出来ればもつと高層化して改修したいという計画もあります。学校の外観に古きよき時代をごらんになるかたがたにはさびしいことであるかもしれません。今の中学校舎が新築された時の計画でまだ実施されない部分を完成するようにというアドバイスをいたいたこともあります。南の本館前の庭園をじらうようにとのご苦情もあります。しかし一昨年度の卒業生は花のある樹がほしくて桜を植えて出ていきましたし、昨年はこぶしの小群をつくって卒業しました。食堂の前にテーブルと椅子を出して、そこで飲食するという形も対談を求める生徒の希望の一部を満たしております。よそ目にみつもないといふ批判もないことはないですが、時代と価値観がどんどん変っていく中でむかしの想い出にばかり執着しているわけにもいかないでしよう。

西高のなかにおりますと世間の西高にたいする見方がおよそ觀念的なものでしかないといふことを感じさせられることが時にあります。教師がいばつっているとか、生徒の頭が高いとか、ガリ勉に徹して差別意識がつよいとか、またこれはこまつたことです。が、施設設備が他校に比して整いすぎているとか、いろいろ耳に入りますが、とんでもないことだと思います。いろんな事象が平等化していくなかで孤児高しとすることなどいくらあがいてもそろそろまくはいかないでしよう。平等の中でいかに独自のものを打ちたて、いくかが問題で、そのためには他人目には見えない地味な努力の積み重ねがあることを知つていただきたいのです。自画自讃になつては困りますが、かくれた精力の消耗は随分なものだと思います。

紙数がありませんが、新しい教育内容を生みだすとする教育方法の開発にも意欲をもつておられます。文部省の指定校にもなりましたし、県の指定も重ねてもらつております。たとえ選抜制度がかわつて各高校の均等化がなされようとも、それに対処していくだけの素地は着々として作られつあることを付記いたしたいと思います。

同窓会の皆様のご健勝をお祈り致します。

# 西高校の現況について

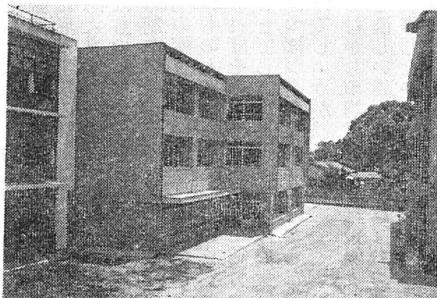
母校教諭 岸

達男

(姫中55回)

私が西校に勤務したのは、今より17年ほど以前のことになりますが、我ながら随分永い間母校に奉職したものだと思います。かつては10年一昔と言わわれていましたが、最近は社会の変化が目まぐるしく、4年乃至3年一昔と言わねばならぬ程、しばらく見ない間に世の中はどんどん変化していきます。学校及び学校周辺もその例外ではなく、私が奉職した当時とくらべると今昔の感はまぬがれません。現在の校舎で昔の面影を残すものは旧講堂と旧体育館ぐらいで、現在ではそれは、校庭の西の方に移築して旧講堂は格技場として旧体育館は卓球場として、それぞれその役目を果しています。

それ以外の校舎は、昭和31年以降に建てられたものですが、最近新築されている他校の鉄筋の校舎にくらべると、お粗末で雨風が強いた時には、本館では雨もりがするという状態です。校舎新築を契機として校庭の南にあつた大木の木々や、春になれば爛漫と咲き乱れた中庭にあつた大きな桜の木は切り倒され、夏になれば日がチカチカする程遮蔽物のない緑の少ない校庭になつたことは残念です。生徒が木陰で憩い談笑する場所がほしいものだ



新理科室

以前のことになりますが、我ながら随分永い間母校に奉職したものだと思います。かつては10年一昔と言わわれていましたが、最近は社会の変化が目まぐるしく、4年乃至3年一昔と言わねばならぬ程、しばらく見ない間に世の中はどんどん変化していきます。学校及び学校周辺もその例外ではなく、私が奉職した当時とくらべると今昔の感はまぬがれません。現在の校舎で昔の面影を残すものは旧講堂と旧体育館ぐらいで、現在ではそれは、校庭の西の方に移築して旧講堂は格技場として旧体育館は卓球場として、それぞれその役目を果しています。

それ以外の校舎は、昭和31年以降に建てられたものですが、最近新築されている他校の鉄筋の校舎にくらべると、お粗末で雨風が強いた時には、本館では雨もりがするという状態です。校舎新築を契機として校庭の南にあつた大木の木々や、春になれば爛漫と咲き乱れた中庭にあつた大きな桜の木は切り倒され、夏になれば日がチカチカする程遮蔽物のない緑の少ない校庭になつたことは残念です。生徒が木陰で憩い談笑する場所がほしいものだ

と思います。最近は毎年西高にて立つてゆく卒業生が、お互いにお金を出し合つて卒業記念植樹をして学園に緑を残して行つてくれることは、うれしいことの一つです。これらの木々が早く成育して亭々と茂つた大樹になり憩の場所になれば良いと思います。

(姫中55回)

なれば良いと思います。

なお、理科教室などの特別教室は昔とくらべると随分良くなり、良く整備され立派になりました。又昨年より西高は、文部省の教育方法等の研究指定校となり各種の教育機器(例へばアナライザー、オーバーヘッドVTRなど)を導入して昔ながらの黒板にしての一番授業に検討を加えて、生徒一人にしての一番授業に検討を加えて、生徒一人

一人の能力を生かし伸ばしていくことを目標にして、効果的な授業を身につけることが大切だと思いますが多様な生徒が多い様に思います。

変化のはげしいこれから時代には、生涯にわたって自ら学び続ける意欲と自ら学ぶ方法とを身につけることが大切だと思いますが高校時代に自我を確立し主体的、創造的に学ぶ態度を生徒一人一人が今以上に一層積極的に確立してほしいものだと思います。

しかし大学入試や又社会一般の風潮から受けける影響は無視出来ず昔とくらべると、バイタリティーに欠け没個性的な平均的な生徒が多い様に思います。

変化のはげしいこれから時代には、生涯にわたって自ら学び続ける意欲と自ら学ぶ方法とを身につけることが大切だと思いますが高校時代に自我を確立し主体的、創造的に学ぶ態度を生徒一人一人が今以上に一層積極的に確立してほしいものだと思います。

しかしながら、価値や情報が多様化し日々の生活に生きがいを見出すことが出来ず、高校時代に自我を確立し主体的、創造的に学ぶ態度を生徒一人一人が今以上に一層積極的に確立してほしいものだと思います。

西高生は将来に対しての目的意識をもつて、彼等なりに精一杯勉強に励げんでいるのを見つけて我々同窓会が、何か彼らに力を借りてやることが、出来ないものだろうかと思いま

ます。

昭和五十三年には我が校は創立一〇〇年を迎える一世纪の歴史を飾ることふさわしい記念式典が盛大に挙行されることでしょう。又その時には卒業生の総数も一六、〇〇〇名程になると想います。

この伝統に輝く白城会は、同窓会員より浄財を集め白城会館を建設した以外は、後輩に充分な援助はしてないと思います。ここで私は提案したいと思います。

夏休みには毎年一年生が野外活動（神鍋キャンプ、今年は岡山・志賀高原での活動）又運動部は合宿を行なっていますが、それは平素の学習活動では、得られない生徒同志の好ましい人間関係や、協調性、連帯感を身につけ人間教育に役立っているのですが、その場所の確保に不自由な思いをしています。最も教育効果のある適切な時期にいつでも、自由に使える野外の施設がほしいと思います。同窓会にそれらの施設があるならば、生徒はどれ程有難く思つるかもしれません。出来うる限り早い時期に、白城会が後輩のために是非とも校外に、野外活動の出来る施設をもつことをお願いします。最近の西高の状況があらましをお伝えすると共にお願い致します。

## 昭和四十八年度

### 進路状況について

進路指導部長 中山 昌 弘

り先輩の方々から物心両面にわたる多大の御援助、御協力を賜わりまして厚く御礼申し上げます。本年もまた受験に際し、いち早く入試要項を届けて下さつたり、宿舎のお世話から案内、激励など、不馴れた受験生に温い御支援をしていただき深く感謝しております。

さて、今春姫路西高を卒業した生徒は三百五十一名で、その内訳は、大学進学者二百六十八名、未進学者七十八名、就職者五名となっています。この数字は過去三年ほどの間、ほとんど変わりません。特に東大、京大、阪大、神大の四大学の現役合格者の合計は百人前後で大差はありません。

本年の合格者数につきましては別表に掲げていますからご覽下さい。特徴を申しますと

京大合格者が少しすくなくて、神大合格者が多かつたこと、理科系合格者が増えたことです。テンポの早いこの時代に生きる生徒は社会情勢を敏感に受けとめて大学、学部、学科を選択します。例えば、以前ですと東大理一（主として工学部）へ行ける生徒が今では阪大などの医学部へ行きます。工学部でも公害企業に関連のある学科は益々敬遠しますし、反面、ブームの建築、土木は人気上昇で、かつての花形であった電気、電子は最近色あせた感じがします。女子生徒は女子大学を避けて

がそれぞれ合格したことです。最近の生徒は大学に合格しても、その大学が気にいらなければ一年浪人するケースが多くなりました。予備校に通っています。まさに大学選択の時代を反映しています。

全国の大学受験生の総数は数年前とくらべると随分少なくなりました。これは卒業生総数の減少が原因です。したがって競争率も低くなっています。しかしながら有名大学への志願数は少しも減らなくてむしろ増加の傾向にあります。本校の卒業生が受験する大学は競争率が高くてなかなかの激戦です。京大、阪大の工学部系は倍率が低くても粒よりも集まって来ますからこれまたなかなかの難関です。

テントの早いこの時代に生きる生徒は社会情勢を敏感に受けとめて大学、学部、学科を選択します。例えば、以前ですと東大理一（主として工学部）へ行ける生徒が今では阪大などの医学部へ行きます。工学部でも公害企業に関連のある学科は益々敬遠しますし、反面、ブームの建築、土木は人気上昇で、かつての花形であった電気、電子は最近色あせた感じがします。女子生徒は女子大学を避けて

共学の四年制大学を目指しても文学部、社会学部、教育学部、あるいは外国語大学に人気があつて男子生徒にとっては狭き門になっています。

このように大学入試にも社会の流動性が急速に反映しますので、いわゆる進学指導のペランと言われる人達でさえわずか二年後の情勢の変化の大きさに驚く程です。したがいまして、私達は常に社会の動きに敏感でなければならず自先にどうわれることなく確固たる展望と共に未来からの要請を見抜きこれに對処して行くことが要求されております。

今春入学した本校一年生(二十八回)から新しい学習指導要領で学習が進んでいます。

二年生(二十七回)は現役で大学に合格しないで浪人をすると、不利になると予想されます。また一年生が卒業する昭和五十一年度から大学入試方法を変えると文部省は発表し準備を進めています。これらの展望に立つ進路指標が要請されます。

来年卒業予定の今三年生(二十六回)は全員進学を希望し順調な歩みを進めています。現役で合格率が八十分の一になると予想されることは、生徒の努力もさることながら、先生方が生徒一人一人の個性を見抜きそれを伸ばす教育理念と熱意を持っており、それとご父兄の方の力強いバックアップがあるからです。今後とも姫路西高の発展に諸先輩のご指導とご声援を賜わりますようお願い申します。

大 学	現 役			卒 業 生			合計	大 学	現 役			卒 業 生			合計
	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	
学 部								学 部							
早 稲 田	4	4	8	2	2	4		関 西 学 院	4	4	8	1	2	3	
鶴 見	1	1	2					文 理	10	10	20	2	2	2	
岐 阜 處 痘 科	1	1	2					甲 南	1	1	1	1	1	1	4
京 都 产 業	1	1	2	1		1	5	神 戸 学 院	1	1	1				
法 経	1	1	2					神 戸 女 学 院	2	2	2				
京 都 女 子	1	1	2				2	神 戸 女 学 院	6	6	6				8
同 志 社	1	2	3	4		4		神 戸 女 学 院	6	6	6				6
同 志 社 文	3	3	6	1		1	25	松 蔭 女 学 院	1	1	1				1
同 志 社 商	2	2	4					兵 库 医 科	1	1	1				1
同 志 社 工	2	2	4	10		10	2	武 旗 川 女 学 院	3	3	3				3
同 志 社 女 子	2	2	4					川 嶺 医 科	1	1	1				1
立 命 館	1	1	2	1		1		私 立 大 学	107	64	171	70	10	80	252
立 命 館 社	2	2	4					京 都 市 立 看 护 学 院			1	1			1
立 命 館 文				1	1	2	20	京 都 府 立 看 护 学 院			1	1			1
立 命 館 工	6	6	12	5		5		姬 路 短 期 大 学			5	5			5
大 阪 医 科	1	1	2					岡 山 県 立 短 期 大 学			1	1			1
大 阪 经 济	1	1	2					公 立 短 期 大 学			8	8			8
大 阪 产 業	1	1	2					神 戸 山 手 女 学 院			2	2			2
大 阪 工 業	4	4	8					京 都 女 学 院			1	1			1
大 阪 處 痘 科	2	3	5	2		2	7	大 阪 音 楽 学 院			1	1			1
大 阪 药 科	1	1	2					松 蔭 女 学 院			3	3			3
関 西	1	2	3	1		1	1	姬 路 学 院 女 学 院			1	1			1
同 志 社 商	1	1	2					私 立 短 期 大 学			8	8			8
近 習	11	11	22	3		3	1	防 衛 大 学			1	1			1
関 西 学 院	9	3	12	8	1	9	22	准 大 学			1	1			1
同 志 社 工	3	1	4	4		4		県 立 総 合 駒 畠 学 院			1	1			1
								兵 库 医 科 学 院			1	1			1
								神 大 附 属 看 护 学 院			1	1			1
								兩 大 附 属 風 滅 床 檢 查 技 術 学 院			1	1			1
								各 種 学 校			4	4			4

### 卒業生数 (25回生)

	男	女	計
人数	224	127	351

### 就職者内訳

新 日 鉄	2 (女)
三 菱 重 工	2 (女)
長沢法律事務所	1 (女)

昭和48年4月21日現在

大学・学部別合格者数 (48年度分)

大 学	学 部	現 役			卒業生			合計	大 学	学 部	現 役			卒業生			合計
		男	女	計	男	女	計				男	女	計	男	女	計	
北 海 道	理	2		2				2	信 州	工 織	3	1	3				4
東 北 農	工	1		1				2	法文	1		1					
千 葉 工	農	2		2				3	理	1		1					4
東 京 文	文 I	2	2	4				1	工	2		2					
東 京 文	I	1		1				8	名古屋工業	工	8	8	3		3	11	
東 京 理	I		1	2				2	岐 阜	医 經	1	1	2		2	3	
東 京 教	文							1	賀 賀	教 紹	2		2			3	
東 京 工	理	1		1				2	京 都 教	教 紹	4	4				4	
一 橋 商	工	1		1				1	京 都 教	工 織	1		1			1	
金 沢 菓	農							1	大 阪 外 語	外 教	2	1	3		1	4	
名 古 屋 工	工							2	大 阪 教	教 紹	1	6	7		1	8	
	医								奈 良 和	和 教	2	2	1		1	3	
	法								歌 山	文 經	2	2	1		1	3	
	經	3	1	4	1			1	島 根	文 經	1		1		1	3	
京 都 都 文	工	9	9	3				3	山 口	農 教	1	1				2	
	農	1		1				27	愛 媽 工	愛 媽	1	1				1	
	教	1		2	2				國 立 二 期 大 学	合 計	43	16	59	10	2	12	71
	文	1	1	2					金 沢 美 術 工芸	工芸					1	1	
	經	2	1	3	2				都 留 文 科 教育	教育	3	3				3	
	理	1		1					愛 知 県 立 外 藥	立 外 藥	1	1				1	
	工	4		4	4			26	岐 阜 菓 藥 科	岐 阜 菓 藥 科	4	4				4	
	基	5		5	1				京 都 市 立 藝 術	京 都 市 立 藝 術	1	1				1	
	工			2	2				京 都 府 立 文 藝	文 藝	1	1	3		3	6	
	醫			1					京 都 府 立 家 學	家 學	2	2				2	
	菓			2	2				大 阪 女 子 大 学	大 学	2	2	1		1	3	
	經	1		1					大 阪 市 立 商 工	商 工	1		1			1	
	營	4		4	4				大 阪 府 立 外 藥	外 藥	1	4	5	1	1	7	
	當	5		5	1				神 戸 市 立 商 管	商 管	3	3	4			4	
	文			2	2				姬 路 工 藥	工 藥	8	1	9	1		10	
	理			4	4				和 歌 山 県 立 家 學	家 學	1		1			1	
	工			2	2	1			神 戸 工 藥	工 藥	1	1				1	
	醫			1	1				高 知 女 子 大 学	高 知 女 子 大 学	1	1				1	
	農			1	1				公 立 大 学	合 計	20	18	38	13	1	14	52
	教			1	20	21				鰐 鹿 農 園	鰐 鹿 農 園			1	1	1	
奈 良 女 子 文	理	1	1					3	鰐 鹿 自 治 医 科	自 治 医 科	1		1			1	
	家			1	1				北 里 藥 症	北 里 藥 症	1		1			1	
	工			1	4				慶 忠 商	商	5	5				24	
	農			4					6	6	6	1			1		
	教			1	1				6	5	5	2			2		
	法文			1	1	2			芝 浦 工 藥	芝 浦 工 藥	1	1				1	
	精			1					上 智 法	上 智 法	1		1			1	
	理			1					中 央 法	法	1	1				1	
	菓			2	2				法	法	1		1			1	
	經			1	1				法	法	1		1			1	
	營			3	3	1			法	法	1		1			1	
	當			1	1				法	法	1		1			1	
	農			1	3	1			法	法	1		1			1	
	教			1	1				法	法	1		1			1	
廣 島 政 經	政	1		1	1	1		6	津 田 塵 海 東 京 藥 科	津 田 塵 海 東 京 藥 科	1	1				1	
	經			3	3	1			東 京 藥 科	東 京 藥 科	1	1				1	
	工			2				3	東 京 理 科	東 京 理 科	1	1				1	
	農								日本獸醫畜產	日本獸醫畜產	1	1				1	
	教								社	社			1		1	1	
岡 山 理 菓	法文			1					文 政	文 政	8	1	9	3		3	
	精			1					日本女子	日本女子	6	1	7	2		2	
	營			4	4				政 經	政 經	8	1	9	3		3	
	當			2	2				法	法	6	1	7	2		2	
	農			1	1				商	商	1	1	2			2	
	教			3	3	1			文	文	4	4				4	
國 立 一 期 大 学	合 計	82	47	129	37	4	41	170	早 稲 田	早 稲 田							36
東 京 外 語	外	3		3	1												
東 京 農 工	工	2		2													
橫 濱 国 立 經 營	經	1		1													
富 山 工	工	2		2													
福 井 工	工	1		1	1												
山 梨 工	工	2		2													

## 特集

### 各回だより

#### 姫中23回

##### 六十五年回顧

「明治は遠くなりにけり」

とよくいわれるが、折角原稿紙まで送つて頂いた事もあり、僕等の在校当時を回顧して見る事にした。

僕等が入学したのは明治四十年で卒業が四十五年だから、全く昔物語りで、現在孫が在学して居る西高と比較すると、今昔の感が深い。

当時の姫中は京口町にあつた。当時はバスはもちろん、山電も無かつたし、学校の方針として医師の証明が無ければ自転車通学は許されないので飾磨、白浜、広畑、網干方面から皆徒歩で通学したものであり、徒步及び汽車通学以外の者は、皆寄宿舎へ入つたものだ。

僕等の同級生は入学当時百二十人、卒業時八十人と記憶して居る。そして二年生の時初めて僕等の級が今の八代に移転したものだ。

家庭の事情で中退した者も何人か居たが、何分考查がきつく、通知薄に四十点が一つでも入れば、他の学科が如何によく出来て居ても必ず落第であつたから落第を恥じて中退した者も相当数になり、結局卒業時には入学時の三分の二になつた訳であると思う。

さて、明治四十五年に果立つた八十名の中現在生存者は四十六年度名簿で二十七名となつて居るが僕等は既に八十才以上となって余生を送つて居るので段々不精になり、お互の通信も段々減少する計り、四十六年度名簿では生存者となつて居る高砂の藤田臺太郎君が昨年他界したので現在は二十六名の筈である

姫路を中心と同窓会を催したのは、四十二年頃だと思う。神戸銀行の姫路寮で催し、会食懇談の後懐かしい母校へ行つて、校長室で色々話した事を覚えてる。

その時には、東京から小田美穂君、名古屋から岡松乾丈君、西宮から伊藤則忠君、加西市から西村栄一君、宍粟郡から山田平一郎君元造、的野忠夫、清水実円、吉田作二、吉中安二郎、田原三夫、三木亀二、伊達一雄、谷村又七郎、田中薰の諸氏が出席されていましたので、神戸市灘区畠原通三丁目八番六号伊達一雄氏が幹事として活躍されていますから同期の方は連絡をして下さい。

田中薰氏や谷村又七郎氏がとてもお骨折りです。井上定次、河合泰助、畠田三次、山野元造、的野忠夫、清水実円、吉田作二、吉中安二郎、田原三夫、三木亀二、伊達一雄、谷村又七郎、田中薰の諸氏が出席された由なつかしい会合があつたと思います。

尚私事で申わけありませんが私は発病以来梅本寿一郎君、永井澄君、橋本朝巳君、竹内

好遙君、西岡延次君等は生否を確認する術がない。今回発刊される「各回だより」を機に入れば、他の学科が如何によく出来て居ても之等諸兄の動静が知れれば幸いである。

#### 姫中26回

私は脳軟化症により歩行不能のため臥床数

年、幹事としての職務をいたし兼ねておりましたが今回おわびのつもりで同期生諸兄の消息をお知らせいたします。

昨年五月二十六回生を主体とするクラス会開会参考者十四名でしたが、盛会でお互に長命を喜びあつたとの報でした別紙当日の記会写真を送つて下さいました。尚本年母校の所

在地で第二回の会合をされる予定になつてますので、神戸市灘区畠原通三丁目八番六号伊達一雄氏が幹事として活躍されていますから同期の方は連絡をして下さい。

田中薰氏や谷村又七郎氏がとてもお骨折りです。井上定次、河合泰助、畠田三次、山野元造、的野忠夫、清水実円、吉田作二、吉中安二郎、田原三夫、三木亀二、伊達一雄、谷村又七郎、田中薰の諸氏が出席された由なつかしい会合があつたと思います。

尚私事で申わけありませんが私は発病以来梅本寿一郎君、永井澄君、橋本朝巳君、竹内

ついていますが先生は姫中の卒業生というので、ずいぶん御無理をして下さいますので姫中の卒業というのがありがたく存じ又誇りに思っております。

## 姫中28回

(森崎 庄次)

果て知れぬ無限の道を僅かに七十八年ほどに歩いている一団が、フト見渡せ出発後にもう四分の一しかなくて、もう先への元気も失せている、というのが同期生の偽らぬ姿で今更現状をいわれても、そんな殺生などいたくなる。

私一人なら何とか書けるのだが、さて友人のとなれば、卒業後早くから消息不明もあって、名簿にもノッペラなあり、生き残りで

今は斯界の雄として紙上にもよく名を出しているのは、大和紡績会社の瀬戸直一氏一人だけである。かつては大活躍したがもう体力の自然減少で、大てい第二線か三線に退くか、全くの隠居で余生を送っているのである。

誰に会つても、訪ねても、ヤア元気かといわず、毎日三つは薬を飲んでいるというのが多い。すでに四十六年刊行の名簿から四名を

消さねばならぬのだから、仮に百歳までと希つても、とてもおよばず、何れその内にといふ人生最終に至つてゐる年齢である。

思えば在学中から、そして折角社会に出ても秀才を發揮するまでに病魔に倒れたのも多いのが評判の同期で、卒業後の四五年間に青春活躍の時に、惜しまれつゝ先走り去つてしまつたのがあり、今更エヘンッと肩をそびえられない現状である。よう今まで生きたなアと思めあうしかない。同窓会もこの四、五年は集まる元気も失せたのか、僅かに手紙で知り合い、慰めあうのがヤツトである。

それにしても恩師の中村久太郎先生が郷里の津山で百歳が目の前、栗田肅夫先生が神戸で九十歳近くで御壯健はまことにおめでたくこの上どもの御長寿をお祈り申したい。

私個人としても、年毎に体力気力が加速度に減るのをよく感じられ、ただ社会への謝恩にもと、罹災前に疎開で助かった資料をこの世に残そうと、毎日が人生のあと片づけの段階であり、どうも長いことお世話になりまし

たと謝意を申しのべて、いかにも老人のグチらしく書かせてもらつて責をふさごう。

(高橋 秀吉)

## 姫中29回

第二十九回 卒業生の近況

私たち第二十九回卒業生は今でも毎年何回かの会合をもつてゐる。最近も六月の八日に

神戸で同窓会をやつた。私は旅行中だつたので欠席したがいつも黒田準威君が世話をしてくれる。会場が神戸の場合が多いので阪神間中心に十数名が集るのが常である。二年間に一回位姫路で大々的に同窓会を催す、その時は石見君や北野君が世話をしてくれる。東京からもはせ参するものが多く三十数名が集る。

卒業以来五十数年、全員が古稀の齢を過ぎ仕事の第一線から引退し悠然自適しているものが多いう。

井内吉二君。先日姫路の山陽デパートでばかり出合つた・彼は非常に若々しくいつ会つても元気である。多芸な男で趣味も広い。畠暮・小唄は特意である。

石見元秀君。永年姫路市長として数多くの業績を残されたことは先刻ご承知の通りだ。石見君は今青山のスポーツガーデンの仕事に打ち込んでおる。

神吉勇蔵君。日本毛織の重役をやつていたが引退して悠々自適の暮しをしている筈、よく大丸あたりで見かけていたがこゝしばらく会つてない。

黒田寛一君。印南郡志方町で小学校長や教育長をやり其後おされて町長をやつていたが今は引退して山中に住んでいる。

高馬正義君。戦時中は海軍の高級参謀として大いに活躍され、戦後不二バターにつとめて同窓会にもよく出席されていたが最近会っていない。

黒田準威君。専売公社引退後明石上の丸の静かな住まいに落ちついている。非常にこまめに同窓会の世話をやってくれる。同君のご尽力で二十九期生の連絡がつき、会合がもたれている。全く感謝にたえない。

福井慶三君、日紹の社長をやめてから中小企業振興事業団の理事長として中央で活躍している。

矢内正一君、関西学院の理事長、昨年も高

砂へ教育の講演に来てもらったが仲々の好評を得た教育者として尊敬されている。

永井重雄君、兵庫県の土木部長だった頃はよく世話をなった。退職され阪神水道の理事長をやっていたが近況は知らない。

西沢静雄君、姫路工大的教授をやめてから神戸の常盤短大の教授をしている。近くにいながらお会いしていない。

尾上作次君、たしか自動販売機の会社をやつておると記憶している。間違っていたらお許し願いたい。昔ながらの上品な紳士で会合にもよく出席される。

大泉乙彦君、吉原製油の重役をしておられた。尾上君同様まことに温厚な紳士で我々の会合にもよく出席せられる。

岡本三治君。関西印刷社長、誠に真面目な方で同窓会の出席率は一番ではなかろうか。

芦田英雄君、大阪木材倉庫の社長をやめてからない。尚思い出すまゝ書いたので順序不

同であり失礼な言辞もあるうかと思うがお許

し賜りたい。かく申す小生県会議員をやめて

から明舞団地で病院の経営をやっておる。議員をやめてから少しは暇になるかと思つて

たが諸団体から役職をおつつかって毎日あ

くせくしている今日この頃である。

(元原 利一)

## 姫中 30回

而立会は健在なり

大正八年姫中第三十回卒業生は而立会の名のもとに連縛として同窓会の敬愛と懇親を重ねて今日に至った。

大正三年入学志願者四百六十八名、入学許可百四十五名中卒九十八名が現存者は四十三名である。大学教授、会社顧問、監査相談役

嘱託あるいは開業医、僧侶、自家経営等何れも現役以上の活躍をしている。東京方面に八名、姫路附近に十二名、その他の大部分は阪神在住となっている。

わかれわれは大正十二年三月の卒業である。今から五十年前になる。青雲の志を抱いて、四人に一人という激しい入試に挑み、晴れの入学式に顔を輝かせて列したものは一六〇名で、その半数以上は高等科から進学していた。当時の無情厳格な進級制度のため、五年の在学中、上から来り、下に去るもの、毎年十名以上。かくて卒業は僅か一二三名。爾來半世紀の星霜は数多くの俊秀を失い、残存

栗田先生が殊のほか喜んで下さった。

最近では去る五月十五日新緑したゝる舞子ビラで開催、集つ者十二名であったが古稀の坂を越えながら何れ劣らぬ瞿鑠ぶりにお互の健康と福祉を祝福し合いながらお互の体験や実践を通じ不老長寿の秘法を探究し、来年卒業五十五周年大会は是非ハワイでと決定し詳

細な具体案の立案を喜多省仁君に依頼して乾杯した。而立会こゝに健在なりといふ所以で

因に而立会のすべてにわたって終始連絡斡旋の労をとっているのは、尾上圭二、喜多省仁、谷村俊助、八尾良藏、木村百樹の五人である。

なおここ一、二年中に加古二郎、大幸作太郎、早川次郎、佐治三男の四氏を失い物故者五十五名を数えるに至つたことは感無量、唯々寂寥の限りである。

(木村 百樹)

## 姫中 34回

姫路中学第三十四回卒業生の記

わかれわれは大正十二年三月の卒業である。今から五十年前になる。青雲の志を抱いて、四人に一人という激しい入試に挑み、晴れの入学式に顔を輝かせて列したものは一六〇名で、その半数以上は高等科から進学していた。当時の無情厳格な進級制度のため、五年の在学中、上から来り、下に去るもの、毎年十名以上。かくて卒業は僅か一二三名。爾來半世紀の星霜は数多くの俊秀を失い、残存

の淋しさを一入感じる今日此頃である。第一線は既に退き、孫を抱き、中には最孫を抱く少數の友さえある。有史以来の激動の五十年間われわれ程その波を諸に被つたものはない。激しい軍事教練、嚴寒の徹夜行軍、更らに満州事変、大東亜戦争、そして敗戦。「死は鴻毛より軽き」青年時代から「人の命は地球よりも重し」の現在への移行の半世紀である。

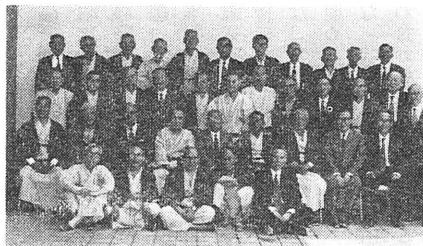
現在の青年から見れば実に憐れな人生の筈。それだのに相集えば往時の苦難の一つ一つが楽しい思い出になつて、恩師のこと、級友のこと、談えきることなく爆笑、又爆笑である。古稀を前にした老翁が五十年前の青年に復帰している、この故にわれわれは少くとも一年一回、夫妻同伴の会を開くのである。ある年は書写山に亡友の遺族を迎えて追悼し、比叡山本坊で亡友の靈位を囲んで往時を語り京都の秋色を探つた年もあつたし、奈良の仏閣を巡つたこともある。昨年は新姫路をみて白城会館を訪ねた。去る五月十三日には新緑の京都を訪ねた。それぞれの地に住む友達に計画してもらうので会場に不自由しない。然し現在連絡出来る友は八十五名である。悲しい哉、この数は減る許りである。正に一期一会の心境である。この思いと、五年間の友情と

か、逢えば昔の悪童に帰れる楽しみに重さないで、常に次回を約束して散会する。  
今秋は大阪と決つてゐる。その日の為に老翁達は自重自愛の毎日を送つてゐるのである。う。

(柴垣 武夫)

## 姫中35回

### 姫中三五回の記



人間、年をとると気がせくと言ふのか、昨年姫路を中心にして、平安閣で会合を持った際、中学を出てそろそろ五十年という話が出た。それでは五十周年ではないけれど、数え年で育つたのだから五十年記念で全ての諸君

の会合を持とう。

同席の兵庫相互の社長

長谷川君が会

場を受持つと

いうことで、

日時は六月三

日に決定。幹

事としてはこ

の際、名簿も

発行したい。

消息も戴せた

い。石川正次

院長の診察室を事務所代りに使用させてもらひ名簿のカットは、長崎在住の医師ではあるが国画会の会員である小林君に依頼、快諾を得た。万事三根毅君の奔走の結果で、準備万端OK。場所は有馬の兵銀荘。前夜からの泊りこみが十八人。前夜祭として大いに飲んだ。

当曰は関西方面はもとより、遠く関東の諸君、松江の高馬君、呉の佐野君、長崎の小林君等、生存者六十八名のうち三十七名参加という盛大さ。記念摄影をやつてスキヤキの会食となつたが、何分五十年振りの顔もあることなので、同窓会でありながら自己紹介をやらざるを得ない。へー、あれが誰君か、と呆れるやら、ひいては各自、自分自身の変りようも思い知らされるという羽目になる。しかし飲むほどに、食うほどに、昔のボロ校舎の姫中時代に返り、「鷺山に秋」の合唱もやり楽しい四時間の会合を持った。ここに会場、それに女と飲み物を提供され、その上写真技師の世話をまでしていただいた長谷川君、準備万端受持つていただいた三根君、それに万難を排して参加していただいた同窓諸君に感謝すると共に、不幸にも病氣その他止むを得ない理由で不参加された諸君が、次回には是非参加されるよう祈る次第であります。

(牛尾 留男)

## 姫中37回

姫中三七回卒業生諸君

お互いに元氣で六十五才の坂を越して来た。然し半分はもうすでにこの世に居ない。さびしいことだ。

半分になったクラスメートが生きて元氣で倍の力をふりしぶらねば三七会は生きて行けない。

昭和五十年の春は我々三十七回生の「満五十周年卒業記念」クラス会を開催する計画を世話人一同でたてゝいる。盛大にやりたい。

それが為には皆元氣で達者で居てもらわねばなりません。丈夫で長生きをして五十年の春には今村秀一さんの胆いりで盛大なクラス会に参加してほしいものです。

若き日のファイトを胸に燃やして「鷺山に秋の夜はふけて……」を声高らかに合唱する日を待ちましょう。

栄誉を得て自適している優秀な者も居るが最近の情報によれば榎原君。瀬尾君。井田君。米田君等が次ぎ次ぎへと死んで行った。謹しんでお悔み申し上げます。我々は社会から老人と呼ばれる年令に到達した。

老人福祉を受ける身でなく老人福祉の為にまだまだ働く様お互いによく健康に注意し

元氣で長生きをしましよう。（藤本威徳）

## 姫中39回

昭和十二年の春、二五〇名入学したが、卒業の時には二〇〇余名になった。現在、名簿に載っているのは一五一名だが、この中で所

在不明が二二名あるし、またその住所の不確実なものもあるので、通信可能な者は一一〇名前後になつてしまふ。今回の名簿作成に当つては、できる限り手広く情報を集めて、空欄を埋め、また訂正をしたが、なかなか完全にはならなかつたのを残念に思つてゐる。

われわれは、太平洋戦争という未曾者の惨事を経たため、多くのクラスメートを失つた。名簿では死亡者五六名を数えるが、さらには今年の二月に、永らく共にクラス幹事をしていた江原敏夫君が逝つたことを報告しなければならない。有能な者が多く逝つて寂しいわわれわれは、いずれも還暦を過ぎた年令だから、身体的にも生活的にも転換期にきてゐる。寄れば、お互に健康のことがごく自然に口をついて出るもの、それを意識しているからであろう。そして、サラリーマンで、新しい職場に移つて、第二の人生へと出発しているのが多い。そして、さらに、子供達がそれぞれ社会へと離れていく、何かの機会に一

時帰省する以外は、二人の生活に戻つてゐるところのもの多いようである。もうそのような年令になつてゐるのに驚くが、このような第二の人生を歩めるのは、幸せであると思われなるまい。

同期生には、県外生活者が割に少なく、多くが県内生活者であるためか、クラス会にはいつも三〇名から四〇名ほども集つて賑やかである。クラス会は三年に一度位の割合で開いたことになつてゐるが、今年は五月二十日に佐賀の内田先生をお迎えして開いた。小生は都合悪く出席できなかつたが、お元気な先生を、その昔、よく先生に絞られた連中が附んで、回顧談を湧かしたという。数年前、榎本先生をお招きしたが、その後、逝くなられて、旧主任は内田先生お一人になつた。いつまでもお元気でいらっしゃるようにと念じている。

われわれもいよいよ健康に留意して、社会のために働かねばならぬと思う。働くことがまた健康保持の良薬でもあるう。

（永井 俊雄）

## 姫中40回

姫路を人間尊重の都市へ

四〇回卒業生で姫路に最も知名の者といえ

ば、姫路市長吉田豊信君であることには誰も異論はないと思う。毎年の四〇回同窓会には

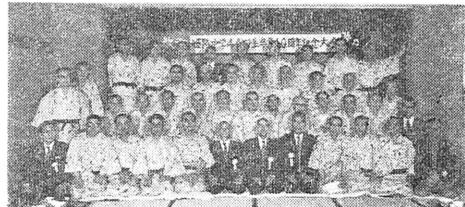
約四〇名が集っているが市長も必ず顔を出してくれる。同窓の者は集会ごとに市長を囲んで「おい」「こら」と肩を抱き腕を取って激励したり苦言を率直に述べている。姫路市内や近郊の居住者が出席者の大半なので話しあはれども姫路の未来像につながってくる。同窓の者は姫路を大切にしたいため姫路市長を大事にするので、市長を大事にするため姫路を大切に思うのではない。吉田市長が同窓全員の力強い激励と叱咤を快くうけ入れて姫路を人間尊重の都市として発展させてくれることを願つてやまない。何があるとすぐむづみKK社長の岡本徳治郎君宅へ同窓の幹事は集つてくる。伊勢田喜蔵君（姫路市嘱託、合唱指導）、村上覚君（新張木工社長）、松本重雄君、土居忠夫君、真田文雄君、高田敬三君、萩原修君等々がそのメンバーである。

あとになつたが門脇政夫君が県議会議員、吉山博吉君が日立製作KK社長として活躍しているのは同窓の意を強くするところである。最後に大坪昇君（椎名麟三）の永眠に対し心から弔意を表したい。

（藤川 詮暢）

青葉薫る五月十九日私共四十四回生は昭和八年学窓に袂をわかつて今年で丁度四十年ということで恩師内田先生、柴垣先生、堀川先生をお招きして塩田温泉夢乃井にて記念大会を開催しました。

駆せ参じた同窓東京より三名、名古屋より一名、京阪神より十二名、姫路市及び近郊より二十五名計四十名午後四時より同窓物故者六十三名の追悼会を挙行夕刻より懇親の宴を開きました。遠路佐賀県より夜行列車にて御出席下さいました内田先生は殊の外御元気で同窓を前にして感激一しおのご様子でした。尚恩師岡本三



病状大変悪く出席不可能のため大変残念に思つて居りました同日夜御死去の報に接し心よりお悔み申上げました。

四十年振りに始めて再会する同窓の顔も二三名あり名刺交換の間に昔日の腕白時代の姿を思い出し宴尽きることなく午後十時過「鷺山に秋」の歌を齊唱各部屋に宿泊深更迄語りあかす同窓もありました。

翌朝一同バスに乗車先づ母校西高を訪問、柴垣先生より其後の変遷の話を承り毎年八月に開催されます白城会総会には是非出席されますよう懇望がございました。続いて名古山墓地では同窓山脇正邦氏作の祝迎の等身大の仏像が安置されている事を知り拝見致しました白鷺城を眺めながら昼食手柄山山頂にバスにて登り変わり行く姫路市の全貌を眺めまた普段の思い出に一時を過しました。

午後二時姫路駅頭にて同窓の健康と再会を誓い万歳を三唱して二日間の大会の幕を閉じました。

（高橋 信二）

## 姫中47回

四十七回生だより

この六月十二日、柴垣先生がヨーロッパ旅行より帰られ、又村山勇次君が、中播財務事務所長に着任された、二つの御祝を兼ね姫

路の「まつびし本店」で午後六時より有志集  
り、旧交をあたためました。

この会合は、亀山本徳寺連枝、大谷昭世

君、外科病院長、野中仁作君のお世話によるも  
ので、当日参集したのは、岡田義弘君（現在

外科病院建築中十月完成予定）、勝間三郎君  
(慢性肝炎にて国立病院に入院療養中、快方

にむかい、特に出られた由)、後藤憲一君(司  
法書士で皆様既におなじみ)、雲丹亀寛君(日  
化商事㈱社長、富士電機重電関係製品代理

店)、加藤寛一君(紙商㈱加藤商店社長)、そ  
れに私を加えて十名。平素大体顔を合せてい  
る者ばかりとは云え話がはずんだが、先ず、

柴垣先生より今話題の、ラストランゴ・イン・  
パリの映画内容について、詳細の説明があり

日本上映の形式について、色々論議が交わさ  
れ、楽しい雰囲気となつた。又同年代の悩み  
でもある息子、娘の結婚問題等についても、  
色々の体験、意見交換に話が咲いた。残念な  
がら、私、合憎くと、朝来、下痢に悩まされ  
少し微熱もあり、最後まで付合いで出来ず中座  
しましたが、あと三次会に繰出し、楽しい一  
夜を送った由。

この機会に、同窓生のニュースを記しま  
す。山根治君が、甲府地方検察庁検事正に、

高田操君が、開発電気株式会社に勤務替りす  
当日、伊藤義郎君が風邪のため欠席(ラジオ  
関西音楽出版社専務) 太田垣義成君も所用の  
ため欠席(生野ゴルフ場(取)支配人) 高井  
潔君(阪神相互銀行総務部次長) も欠席、藤  
森暢路君(耳鼻咽喉科病院長) も相変わらず、  
東京と姫路間を忙しく往復しています。香山  
雅之祐君も、姫路に新居をかまえましたが、  
勤務先は、高知の日本特紙工業㈱へ出向。森  
川尚明君も、松江市の広告代理店へ出向、長  
谷敏晴君も東京銀行を退職し、兼松江商㈱大  
阪支社へ、河野正七君は、三菱重工、三原製  
作所技師長に、黒坂良一君は、三峰地所とし  
て自家営業、姫路市内では、市役所課長に田  
中隆典君、駿ビル四階に、田嶋隆雄歯科営業  
春名利雄君は税理士として奮斗中、梅田四郎  
君は、阿保病院副院長、小谷孝夫君も内科医  
院長で最近ゴルフに熱心、先水清君は、関電  
をやめ武庫の台開発㈱へ出向ゴルフ場造りを  
はじめ、井上勝君が的形小学校長、福井武雄  
君が鈴磨小学校で活躍して居ります。国岡恵  
照君も相変わらず山から下りて来て居ります。  
又、児島政秀君は兵庫相互銀行常務、尾上  
直樹君は播磨耐火煉瓦取締役部長、鍛治川  
弘祥君は大起紙業㈱社長、横尾崇君、黒石光

雄君は、夫々、石川島播磨重工、相生第三工  
場で大活躍。福島千寿君も、相生産業高校で  
英語を教えて居ります。

白城会の東京支部総会で逢つた、朝比奈精

君(石川島播磨重工、国内船舶部長)、瓜生原  
二郎君は安田生命の調査室長で頑張っており

各方面で活躍中の諸君を書きたいのですが、  
予定枚数も超過しましたので終ります。

近く、同窓会案内も出しますから、その時  
は万障御縁合せの上、御出席下さい。

### 姫中 48回

(三宅 成)

昭和八年、姫中卒、四八回生、現在一三三  
名他に転校した者など三名を加えて一三五名  
で姫中四八会を結成。幹事長、壇阪信次郎以  
下十三名の幹事。うち庶務一名。石坂豊明に  
引継いで現在土井克己が西高にあって庶務に  
当たっている。

年一回会員名簿「金蘭簿」を発行。友情の  
堅きこと金の如く、芳しきこと蘭の如し、会  
員及びその近親の消息異同は庶務のところに  
必ず報告することに決めている。会員の家族  
に不幸などあったときにはおおぜい見舞つて  
慰めることにしている。年千円を会費として  
賦している。姫路に本部、東京と神戸に支部

をおいて、年一回必ず本部の総会をし、又、支部の会合もして懇親を図っている。

恩師は次々と物故されて担任であったのは坂岡先生お一人になりました。坂岡先生は現在東京で淋しい老年をお送りなので他の回で坂岡先生の教えをうけられた方々にも先生を慰めてあげていただきたくお願ひ申上げます

(玉井 克己)

## 姫中 51回

五一回二一二名のうち消息不明が一三名。

物故者五〇名の殆どは戦争犠牲者。海兵生残りは海上自衛隊の中林だけ。陸士はミナミナイロン社長や丸紅飯田の石川、電通の大津、東京銀行の高木、神戸銀行の中野、地元で奥野建設等々あるが、隅野が陸上自衛隊の飛行機事故で死んだのは惜しい。陸経では川崎弁護士や広畑海運の堀川……で想い出す尊父先生には、播磨病院の矢内の葬式でお逢いした。お髪がないのは淋しいが黙縄としておられる。矢内が減ったが医者の数では五一回が一番だろう。江戸病院、軽馬内科、苦爪耳鼻科、鉄道病院の関口、相生の福永病院、バンタン組の和辻、山本、須野、佐藤、夜の高知で知る人ぞ知る市民病院の飯塚、そのみちで尼崎の浜本も。とにかく同期の医者は有難い。犬猫の面倒はトッサン二世。東京の仲間二〇名は世話好き清水建設の南平がまとめてくれているが、日医大教授成病院の岩淵の世話になっている。大学教授といえば京大脳神経外科の半田、慶應義塾工学部の水島、鴻大精密工学科の筒井、三重大水産学部の松

本敵と多士済々。五一回は今年五才。交通事故を聞かぬのは不思議だ。先年板文の利安が車にはねられるのを偶然目撃したが彼は不死身だ。医者は多いが坊主が無い五一回であるから御互い自重しよう。頭の白さでは多田歯科医、薄いのは山陽色素の斎木と橋市会議員とか。長らくクラス会をしていないが、久しぶりに集まれば王座が変更するかも……。

限られた字数で消息の一部しか書けぬが他意はない。同期の誼みで呼び捨暴言お赦しを。下記の消息御存知なら乞一報。足立芳郎、遠藤忠昭、越智直亮、萱島信一郎、木村育夫、小竹弘之、酒井仕、志垣朗、波多江尚義、東誠二、松谷宏、丸山茂、村山栄夫。

藤井宜雄先生が眼を悪くされております。伊丹市南部字小豆領九七三番地  
(藤浪 豊助)

## 姫中 55回

私たちとは、昭和一九年三月の卒業です。戦争の最中に育ちながら、戦死者を一人も出さなかつたことはせめてもの慰めですが、ご多分にもれず、進学・就職など戦後の苦難の荒波をもろにうけ、近々やつと夫々の持場で、それなりの地位につき、社会的にも活発な活動をやっている者が多くなつていつた現状です。

いてくれるのは誠に有難いことです。  
同窓の中に、遠く北大には大杉君、東北大には西崎君、東京には電気試験所にノーベル賞候補に擬せられている伏見君が、神戸大には松本君が夫々専門の分野で、益々驥足のばしていることは心強い限りです。  
同窓会の世話は、東京方面は弁護士の小沢君が、大阪は設計事務所の岡本・内藤西君が神戸では青木・高部・名定・畠などの諸君が地元では青木・高部・名定・畠・河野・八幡などの諸君が何かと尽力をしてくれております。  
来年は卒業三十周年に当りますので「記念同窓会」を立案中です。その準備の意味をふくめて、本年の八月十二日の白城会総会に便乗して近隣在住の諸君の参集を願つて総会のあと、五五回だけの小同窓会をもつ予定です。のでふるはつてご参加下さい。  
月日を経たとはいえ在校中担任していた飯田・田山先生を相ついで失い、近くは入学時より卒業迄迷惑をかけた岡本三吾先生がご逝去され痛恨の至りであります。一方、同窓生の子弟が母校で御世話になつているのが三十名程もいるとかで全く今昔の感があります。そしてまた、近く孫のできる人や近々にはじめて子宝に恵まれた人。社用族で永く海外に勤務したり、近々に出発する人々諸兄の多彩な近況が寄せられております。  
同窓諸兄の一層の活躍を祈念し本年の、更に来年本番の三十周年記念同窓会が多数の参會者をえて盛大且つ有意義なものになるよう

諸兄のご協力を願います。白城会通信の次号あるいは次号で同窓会報告が盛大にできるよう協力を重ねてお願いするとともに世話係一同努力したいと思っています。

本年の八月十二日来年の〇月〇日 お会いできることを楽しみに。  
(高井 正)

### 姫中 56回

五六回生の同窓会は、五六会(ゴンタでロクデナシの会)といい、昭和四十一年八月二十八日に発足した。昭和二十年三月卒業生二五三名を会員とし、会長上野一也、事務局長田賀明、本会事務局を姫路市小姓町船場西ビル六〇九、田賀明方に置く。本会の他に五六京阪分会(神戸市葺合区雲井通七丁目・神戸新聞会館四二三号清水特許事務所内、藤原雅方)、五六東京分会(事務所在不明)がある。

五六会では昭和四十一年八月二十八日創立総会以来、毎年八月か九月に同窓会を開催して会員の旧交を温め親睦を深めている。以下各年の総会行事を記してみる。

#### 開催日 場所 行事

第一回 昭41・8・28 三光亭

1 学徒動員でしばられた石川島播磨重工業相生工場見学

2 安水先生長寿の御祝と齊藤先生の還暦

### 祝(略して弁天祭)

#### 第2回 49・9・17 白鷺会館

1 五六ゴルフクラブ発足第一回ゴルフコンペを姫路青山ゴルフ場で行なう。

#### 第3回 43・9・22 白鷺会館

#### 第4回 44・9・14 八仙閣

田中九一先生をお招きする。

#### 第5回 45・8・16 北京閣

#### 第6回 46・9・19 白鷺会館

#### 第7回 47・8・27 白鷺会館

1 ボウリング大会

#### 2 物故会員の合同慰靈祭

1 47・6・11に五六会ファミリー・ボール  
が誕生したのに次いで、第二回五六会ファミリー・ボール

#### 2 五六開幕大会

以上年一度の総会のほか、姫路在住有志が年中行事として行なっているものに、梅雨あけの夢前川における鮎がり、年始年末の新年会忘年会など。

(田賀 明)

### 姫中 57回

姫中五十七回のみなさん! お元気ですか。

年一回の同窓会を開催して居りますが、五十七回同窓の現状と同窓会の状況を報告して、御協力を得たいと存じます。昭和四十六年四

月現在で四十七年一月頃に発行された白城会名簿には、五十七回の総数は二四四名ですが、住所が空白になっているものが、四十六名もあります。その上名簿通り同窓会開催の通知を出した所、居所不明で返送されるのが、三十九通あります。従って五十七回同窓に通知出来る人は一五八名です。中堅として、幹部として、御多忙のため転勤、転宅等でわざわざいることではあります、五十七回の幹事を、姫路市八代五四九、内山孝一君と、姫路市八代御茶屋町六八六、有野有とがお世話ををして居りますので、その節は、御一報下さい。又五十七回よりの連絡が今迄なかつた人は、御通知願えれば、今後は必ず連絡しますのでよろしく御願い致します。

昨年の八月二十日(日)午後五時より姫路駅前で、約四十名集まり同窓会を開きました。約三十名位集まつたとき「私こゝですか」と尋ねる老人あり。すぐにある人曰く「違う違う」と。その人、首をかしげて更に言う。「今日は確かに五十七回の同窓会だというのに」。畳に寝ころんで待っていたある人が「あー君か! 君か! 」と。それが大騒ぎの始め。なる程、頭はよく禿げ上り、我々の同期とは思われないが、頭には「しわ」が少なく

赫々として元気であった。「二十七年ぶりとは！」と出席者の会員一同「うん」とうなつた。過去の追憶にのみ追われる同窓会も、

「これではよい年だなあ」との声も聞かれる。例年の如く、昔と変わらない福永利一先生は、定刻にかちりと来られる。先生は今は白陵高校で昔と同じに教えて居られる。いつも来られる柴垣先生が来られない。幹事は、すぐに自宅に電話すると、午後一時に出られ

た由、その内約一時間程遅れて来られる。そ

の日は西高四回生が近くで午後二時よりやつていたので、戦後の話に花が咲いたのか、男

性ばかりの殺風景より向うがよかつたのか、男

かなあと言ふ。柴垣先生の御来着で、会員一同の出席名簿の変りに写真を撮る。

以上が大体の状況ですが、今後の同窓会のあり方もよく考え、八木実君、児島欣一君、内山孝一君とよく相談をとつて、五十七回の同窓会を期したいと思っています。

東京より水田治雄君、横浜より尾上久



昭和57年四月同窓会

浩君名古屋より恒岡美和君、大阪より清水長次君を迎へ皆二十七年ぶりの会合に手を打ち合って歎談に耽る。地元より県議員とし

て、活躍している清元功章君も、この日はゆつくりとビールを傾けていた。会はバイタリティに富む八木実君のリードで盛会を極めたが同僚間をタフに立ち廻る永遠の青年長久鉄彦君谷一俊君の協力で歌も出て、予定通り九時前に散会した。

姫中五十七回ゴルフ同好会も、原田大円君

岡崎吉男君、児島欣一君の世話をスタートしすでに、もう十回を了えた。次は九月六日（木）生野ゴルフで行う予定である。御希望の橋町、岡崎度量衛（株）の岡崎吉男君、やまとやしきの児島欣一君に連絡を取りさえすればよいそうです。同窓二十数名が、グリーンの色、清い空気を吹しながら運動を競ずる！我々の勤労動員のトロッコ押しとは考えられぬ時代である。

以上が大体の状況ですが、今後の同窓会のあり方もよく考え、八木実君、児島欣一君、内山孝一君とよく相談をとつて、五十七回の同窓会を期したいと思っています。

一層の御健斗御多幸を祈る。（有野 有）

## 姫中58回

よもやま話

学校を出ですぐ母校に奉職したので、当然の事のごとく幹事を仰せつかつてすでに二十二年。今は校内常務理事として西岡先生の後を継いだが、やってみると減法忙しい毎日の明け暮れで、五十八回幹事としての任務が果たせていない点、まず同窓諸兄にお詫びしたい。

われわれ五十八回生は昭和十七年四月に入學、五学級三五〇名定員であったが、昭和十八年三月より戦雲急を告げるなかで勤労動員に駆り出され、二十年八月十五日の終戦の日まで大日本セルロイドK・Kならびに日輪ゴムK・Kで勤労奉仕作業に従事した。その後は戦後の混乱と退廃のなかで姫中第四学年を修了して二十一年三月に卒業した者と、第五学年を修了して二十二年三月に卒業した者とに分かれた。その間に生徒の転出・転入は激しく、軍隊から復籍した者もあって、その数は實に二十九名の多さに及んでいる。

同窓会は小生が母校に赴任した翌年、昭和二十七年と翌二十八年の两年にわたり、幹事の大塩俊次郎とはかって、石田俊直君、米沢宏之介君らの助力を得て開催、学年主任梅沢

先生も母校在職中で健顔に接したが、戦争中の不自然な師弟間の人間関係もあって、一部の師弟の間では不穏な空氣もあったやに聞く。その後は、昭和四十年代に入って、地元姫路地区はもちろん、阪神間の同窓生が隨時に会合を持ってきたが、昭和四十三年の八月に新装成った白城会館で同窓会を持った。井上惣平・八木松造君を発起人として林幸雄・山田良一君の助力を得て、阪神地区の同窓生多数の参集を得て、大いに青春の夢を取り戻した次第である。なお今年は八月二十六日(日)に同窓会を行なう予定です。目下、着々と準備を進めているので、同窓諸兄も今から予定を入れてもうらつて、当日は必ず出席ください。どうぞお願いします。

(橘 義康)

### 姫中59回・西高1回

中学三年で終戦になり、戦前、戦後を姫中で学んだ吾々は、いろんな環境の中で生活している為かわかりませんが、同窓生の中には異なった職業の人、趣味をもつた人が多いよう思われます。卒業以来二十五周年を迎えていたのです。大阪支部は山本八末君の音頭により盛大に同窓会も開かれ、名簿も完備し

ています。東京支部も最近は余り集ってない様子です。五十九童会(五十九期有志)もゴルフコンペを始めて居りましたが、最近一寸途絶えているようです。日々再開したいものです。

(高倉 基泰)

何んといつても全国的に名前も売れ事実活躍している人に藤岡琢也君が居ります。忙しい生活の中にも同窓生が訪ねてくれることを歓迎して気持よく撮影所特に夜の東京の案内などを喜んでやってくれているようです。

代議士先生を目指して努力している前田知克君、次の機会には是非とも目的を達してほしいのです。

どういうめぐり合わせか知りませんが、吾々同期生のうち、お医者が十八名もいます。

中でも歯医者で博士号をとった鯉田英昭君など異色の存在だと思います。

又特に多いのは子弟の教育で活躍している先生が二十六名もいますが、母校にも柏原(幹)下村、森下、山下(駿)君等が勤めています。

日活監督の浦山桐郎君、日本舞踊家としての坂東大蔵(岡林守行)君、謡曲の井上生香君、日本デザインセンターの永井一正君、バンドマスターの藤中基君、三和寺住職の吉村

玄司君、劇団若草で活躍している関文雄君、画家の山本耀也君等、数多くの特色ある人材を世に送り出した五十九期生は今各方面で中心的人物として大活躍しています。

(高倉 基泰)

### 西高4回

昨夏、卒業二十周年を記念して新大阪姫路ホテルで同窓会を開きました。出席者の顔ぶれは写真の通りです。さすがに二十年もたつと見ただけでは名前の思い出せない顔もあり、この写真にも名簿をつけるべきですが

紙数が制限されていて残念です。何よりもうれしかったのははるばる東京から大勢の参加

者を得たことです。テレビや映画で大活躍の藤岡重慶君につづいて、

在校当時文化祭で

藤岡君演じるところのシラニー・ド

・ベルジユラック



姫路西高農業学校4回生 卒業二十周年記念同窓会

の恋人役をつとめた江川（山本）展代さんが  
スピーチに立つと、どっと拍手が起りまし  
た。姫路では最年少議員の一人として水田宏

君が市会で大活躍していますし、河西公之君  
が姫路労音事務局長として姫路ではじめて地  
元の合唱団と大阪フィルハーモニーの共演に  
よる「第九交響曲」上演を実現し、姫路文化  
賞を得ました。世界的なギタリスト松田二朗  
君は晃演と改名、依然として精力的な活動を  
つづけています。

（木村 守雄）

## 西高6回

昭和四十九年は、我々六回生の卒業二〇周年  
年にあたりますので、久闊を叙し、旧交を暖  
めていただくべく、総会を計画しております  
諸兄姉の御協力をお願い致します。

（荒井・下村・澄石・福山・藤井）

## 西高7回

私共、昭和三十年に卒業以来、十数年間は  
学業、就職、結婚と人生の中でも最も多忙の  
時で、同窓会を開く余裕もありませんでした  
が、生活に落着  
きが出来た頃を見計り、昭和四  
十二年一月四日、  
同窓生一同に召  
集をかけ七城会  
を結成しまし  
た。

これの意味は、  
字の通り西高七  
回生の七と白城  
会の城を合せた  
との強い声に本年の会合が決定された。この  
ことは年賀状で予告された通りであるが、左  
記のような日程で実施されるので多数の参加  
を希望します。

日時 昭和四八年八月一八日、午後四時  
場所 まつびし



姫路市西魚町三一（ハリマタクシー前  
電話八八八二〇八七八）  
（井上 博道）

会社あるいは自家営業など、それぞれ中堅幹  
部として忙しく、女子の方もまた子供さん方  
の手が離れず、今回も八十名程しか得られま  
せんとした、それでも九州とか、東京とか遠  
方よりわざわざ帰つて来ていただい方もあ  
り、世話人としてその時はいろいろの苦労も  
忘れる程うれしく思いました。

今回の時も、もつと頻繁に開けと言う意見  
も強く、我々としても高校時代の友情を大切  
にいたし、出来るだけ集まる機会を設ける様  
に努力したいと思っています。

近隣の男子だけですと、気安く集まれる者  
に連絡して、ゴルフとか、マージャンをした  
り、酒を飲みながら昔話に花を咲かせること  
も再三あります。

（糸川 恵司）

## 西高8回

八回生、現有人数四〇三名、内姫路在住一  
五五名。  
残念な事に今迄一度も八回生全員の会合を  
もつたことがない。  
聞くところによると、今春、同人誌「潮流」  
のメンバーが十数名集つたそうだ。

他のニュースは入って来ないが、案外、県外では少人数の同窓会が開かれているのかも知れない。

今秋は是非「八回生同窓会」を開催したいと思つてゐる。

予定時期 十月中旬

賛同者（六月現在、順不同）

青山豊、安黒正流、伊賀章、石川宏三、宇多川昭、江尻紀、江原昌春、江原良一、大塚兼

正、奥平勝、柏原弘之、川島雄介、神沢昌二郎、楠田一郎、柴垣文夫、下中上治、未定

之、田中稔、高見昭、鷹取敏之、武田敏、武本良夫、橘実、龍田信也、中谷孝良、長谷川一郎、前野育三、松岡治彦、三木郁甫、森下

雅樹、安井章、敷口茂、山川一郎、山野晃、山本傑、和田政則、渡辺達

青野寛子（谷村）、大西美智子（長谷川）、奥平智子（柏原）、柿元睦子（中野）、片井浩子（石田）、神山洋美（北村）、唐木弘代（小島）、神沢加寿子（友野）、黒田恵美子（真下）、楠田賀奈子（岡本）、下中深雪（伊勢）、田畠政子（関）、高原智子（東塚）土井幸子、中川朱業（福永）、永富桂子（林）浜野照代（池田）、堀暁子（福島）、本勝多賀子、松田寿美子、三木桂子（野間）、森

居操（渡辺）、森本政子（永谷）、安田恵美子（小西）、山名育子（小原）、山本靖子（衣笠）、御前みち子（渡辺）、井奥澄子（清瀬）、小林靖子（前田）、菅長敵子（小高）、黒岩陽子（長谷川）、重田真澄（安井）、坪田律子（有馬）、六鹿愛子（池内）、浅田初美（高谷）、井上久美子（町田）、糸田富美代（市村）

この他、出来る丈多數に呼びかけて、連絡がとれるようご協力下さい。

（幹事 高見 昭、高原智子）

## 西高11回

私の同期生は、約十年前に同窓会総会を開いてよりこのかた、何の催しもせず、殊に男子クラスのみかもしませんが、あまり同

窓会も近年は持つ機会がなく、従つて同窓会のまとまつた情報が集まり難くなつております。このような次第で、今回の「通信」に我々の回の現況を報告し得ないのは残念です。

混合クラスのない回生です。在校中は皆が、西牧先生にお願いしたのですが、「今年の女子は出来が悪いので、混合クラスは出来ない」といつも返事が戻ってきたものです。

そのせいかどうか?卒業後は仲が良く、同じ回生でのカップルが五組あるとか……。

三十六年 卒業で、丁度、東京オリンピックの翌年卒業後もオリソノピックのように、四

年に一度同窓会を開いては、と有志の意見、今までに、四十年（大学四年、卒業時）四十一年、それに、今年四十八年といつも正月に

しておきました。彼は在学中生徒会長として人望を集めていますし、姫路に住んでいて何かと好都合だと思います。また新日鉄広畑に同期会員が数名いることも重要な点と思います。連絡先は、

姫路市広畑区京見町四八

新日鉄京見社宅一二五

電話（〇七九二）三六一八三九四

申 村 韶

です。どうぞよろしく御願い致します。

（佐伯 博道）

## 西高13回

十三回生、それは、まれに見る男子、女子

混合クラスのない回生です。在校中は皆が、西牧先生にお願いしたのですが、「今年の

女子は出来が悪いので、混合クラスは出来ない」といつも返事が戻ってきたものです。

そのせいかどうか?卒業後は仲が良く、同じ回生でのカップルが五組あるとか……。

三十六年 卒業で、丁度、東京オリンピックの翌年卒業後もオリソノピックのように、四

年に一度同窓会を開いては、と有志の意見、今までに、四十年（大学四年、卒業時）四十一年、それに、今年四十八年といつも正月に

集まつて、これで三回、一堂に会しました。特に今年は卒業後、十二年とあって、男性軍も、社会人として一人前職場でりっぱに活躍している姿がしのばれます。家庭ではよきパパ振りを発揮されているのか、余暇にピンポンパン体操が飛び出す程でした。女性軍は、お正月三ヶ日のように外出出来る方がどうしても少く十人でしたが、一児、二児の母としてお母様、奥様らしくなっている方、また、独身で、それぞれの道にたけている方と、歩む道は異つても、久しう振りの再会に話がはずみました。先生方も九人とたくさんお集りいただきました。

(江口 一司)

## 西高14回生

### 第14回生同窓会始末記

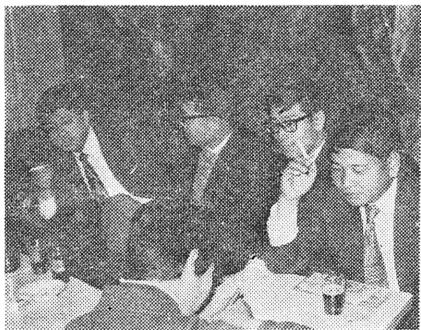
昨年十二月、急きよ案内状を発送し、正月二日、喫茶ライトで七年ぶりの同窓会を開きました。男女合せて三十三名の同窓が相集い、ご来席いただいた先生方を囲んで、しばし旧交を温めた次第です。

△出席いただいた方々▽

石坂、岸、橋、佐伯、後藤各先生方  
今本史代（永井）牛尾宏子（小坂田）金子尚子（北山）佐伯裕美（尾上）関曉子（小

林）古川宣子（神村）山下数代（木村）山田伊津子 荒木慎吾、池淵周一、石川正、石野嘉信、永川仁秀、大谷昌隆、片島淳、桂穂、溝田清、栗山勁（中山）、小寺沢暉三、下田富隆、玉井陸雄、筒井和行、都出清、永井徹郎、西田勝宣（大場）藤原秀武泰弘、夜久義賀、湯浅孝生（岡田）、米田徳夫、以上（ ）内は旧姓

（米田 徳夫）



ハイ、会費をイタダキマス

## 白城会文庫目録追加分 (S 6/47)

著者

泰井俊三（姫中42回）○不眠症—眠りの

石川準吉（姫中36回）○科学—

永井一正（西高1回）○総合国策と教育

阿部良雄（西高3回）○改革案

長尾良（姫中44回）○アートディイクレ

勝原晴希他（西高23回）○やまかひ

阿部良雄（西高3回）○西欧との対話

山崎為人（姫中46回）○長尾良作品集

門脇良教（姫中35回）○人追憶号

○美しき日本



キレイドコロがドッと集まる

## 西高21回

卒業以来五年目になるというのに、相変わらず西高に足を運び、二十六・七・八回生の人達や廊下でそれちがう知らない顔の先生方からは時折「何者だろう」というようないぶかしげな視線を向けられます。東京に下宿していた四年間は学生の特権をフルに利用して春夏秋冬の休暇毎に帰郷し、その度に必ず放課後の音楽室をのぞいたものです。ピアノのまわりに集まる顔は異っても、流れる歌の旋律は変つても、音楽室にはいると何故か落ち着いたものです。それが試験前に無人の放課後で、中庭の桐の花の薄紫に雨が降っている時閉ざされた窓の中の沈んだ空気のあちこちにかつての輝きをもはや失った歌声や、青春の何物に伺うともしれぬ憧憬の亡靈が立ち迷っているようにも思われます。小学生の頃から合唱をしてきたにも拘らず、高校の音楽部のみに特別の感傷めいた愛着をもつのは、はじめて真剣に悩み苦しむことを知り、その中でただやみくもに歌ってきた時代が、今、自分にとっての本当の出発地点だという感覚に由来しているのだと思います。音楽室の高校生に私は話しかけたい衝動に駆られます。口を開いてみると驚くほど空々しい言葉しか出て

こないのです。翻つて自分の昔を想い出してみて、大人一般に何も求めていなかつたことに気がつきます。そんな私達が心を通わせることが出来るのは、共に歌う時だけです。いいえ、心を通わせるなど、おそらく錯覚です出来るのは、ひとつのかを共に完成させること、それ丈です。

此の度、コールダムール（西高音楽部同窓会）で、さゝやかながら久しぶりの演奏会を開くことになりました。来年早々（一月六日）、姫路文化センター小ホールでの予定です。お誘い合わせの上、是非、ききにいらして下さい。

音楽が未来的なものであるとするなら、コールダムールで歌つている私の中で、私の若い時代という過去と、音楽の予兆する未来が交錯して、ひとつ現在という時間を作つているといえるかもしません。

## 姫中38回

（辻 由起子）

昭和二年三月三日、前途の希望に胸おどらせながら卒業した者、百七十五名、星移り年変つて四十六星霜の今日、不幸にして物故せられし方は、恩師四名、同期生六十四名、行方不明四十名と誠に淋しいものがある。昭和

四八年五月二十七日青葉の風蕭る姫路の里光源寺に祭壇を設け恩師四柱、同期生六十四柱の御靈を迎へ、御遺族も招待して、東京、阪神、姫路市周辺の同期生相会して厳かに慰靈の祭を催した。式は導師の三奏唱に始まり祭主の切々胸をうつ追憶と友愛の情溢れる慰靈の祭文に遺族の方も同期生も思いは遠く在りし日の馳せ懐旧の情切々たるものがあつた。次いで恩師水田弥太郎先生の師弟の情やるせなき追悼のお言葉に師恩の広大に感激し、参会の同期生一同若き日の追憶に胸温まる思いで、また今更去り行きし時の淡い悲しみさえも感じた。香煙缕々として立ち上がる中に、遺族、同期生とそれぞれ焼香して心から物故各位の御冥福をお祈り申し上げた。遺族の方々との懇談にも追憶懐旧の花が咲き時のたつのも知らず、記念撮影などして、又の再会を約して別れたのが正午であった。

慰靈祭を終つて直会の席を設け同期生一堂に会し、過ぎし方を振り返り現在の自己を紹介し行く末を語つて歎談時の過ぎるのを忘れ、老いて益々結束を固めんと、東京都、中京地区、阪神地区、姫路地区、その他に三八回連絡員をお願いして既に日酉に傾かんとする同期、将来相互に連絡協調を密にせんことを誓ひ合い『鷺山に秋の夜は更けて城楼照らす松の月』を全員声も高らかに合唱して名残つきない会合の幕を閉じた。昭和五十二年は卒業満五十年に当る所以盛大な慰靈祭と同期生大会を企画している。人生六十才からだと三八回生存者張り切つてゐる。（堀尾 純一）

# 故井内校長の業績を憶う

元西高校長 賀 集 音 市



故井内先生

故井内校長は、昭和三十八年四月、姫路西高等学校に任せられ、同四十三年三月退職せられるまで満五ヶ年、日夜校舎の完成を期し、拮据経営せられ御努力のお蔭を以つて当校が現在の如く、整った輪郭を成し得たのであって、これは全く氏の賜物である。赴任せられた当時は、校舎は大体形を成していたが、校地は新旧校舎が入り乱れ、混沌たる状態であり、大整理を断行すべき時機であった。しかし県に於ても不急の工事として積極性を欠き、これが完成は極めて困難であつた。氏はよくこの難事を成し遂げ、ついに功をなし得たのである。今しばらく在任せられたならば、更に内容の充実、校地校舎の美化等各方面の画策經營をもなされたことであろうと思う。私は

故井内校長は、昭和三十八年四月、姫路西高等学校に任せられ、同四十三年三月退職せられるまで満五ヶ年、日夜校舎の完成を期し、拮据経営せられ御努力のお蔭を以つて当校が現在の如く、整った輪郭を成し得たのであって、これは全く氏の賜物である。赴任せられた当時は、校舎は大体形を成していたが、校地は新旧校舎が入り乱れ、混沌たる状態であり、大整理を断行すべき時機であった。しかし県に於ても不急の工事として積極性を欠き、これが完成は極めて困難であつた。氏はよくこの難事を成し遂げ、ついに功をなし得たのである。今

今一友人として禿筆を驅し、外部から、かいまた氏在職中の諸業績の一端を書き挙げ、かいその努力に感謝すると共に、地下の靈を慰め度いと思う。井内校長。どうか疎漏、脱落等真実を取り違えた点も多いかと思うが御寛恕願い度い。

## 一 体育館兼講堂の竣工

体育館兼講堂は昭和三十八年六月二十二日工費二千七百五十余万円で竣工したのであるが、井内校長赴任早々であり大体の工事は小島正敏校長の時代であつた。しかしこの建築も予算が少く、最初我々が立案して立便所更衣室、シャワー、クラブ各室、本館との通路、昇降口等が殆ど削減され、非常に小さなものとなっていた。学校関係の方々には相当不満もあったようであるが致し方がなかったのである。

## 三 図書館食堂及び白城会館の建築

図書館の建設は代々の校長が苦労を重ねたのであるがなかなかその運びには到らなかつた。食堂なども定時制には認められるが普通科には到底認められなかつた。白城会館も最初は講堂建設を目指していたが現時では全く見通しが立たず、転換を要する立場にあつた。こうした三つの難しい問題を一気に解決

た。しかしその予算が校舎建築に横取りされ度々延期となり、再び予算を組むことが出来ず行き惱んでいたが、育友会長米田光夫氏の英断により全部育友会費で完成することとなり、現在の如く、他の学校には見られない立派な形で実現した。西の校門は正門とするよう願っていたのであるが、これも立派に出来本当に嬉しかつた。井内校長も最初は正門の形、ローラリー、道路の幅員、街路樹、駐車場等について随分構想をねつて居られた様であつたが、思い切つて立派な広い道路とせられたのには全く感心させられた。昭和四十一一年十二月完成、経費は両方で約三百五十万円全部育友会の負担であり、校長も相当気を使われたことであろう。折角出来た道路であるから、単に通路のみでなく各方面に利用度いものである。

## 二 校内道路及び正門の造営

最初私の考えていた全体計画にも、運動場と校舎との間に道路をつけることになつてい

し、三つとも全国にも稀に見る立派な物が出来たのであるが、これには、県教委始め、白城会、育友会、校長の並々ならぬ苦労と英断が必要であった。先づ白城会の方は理事長空地純一氏の御発議と御尽力により、極めて円満に合同建設の議と資金の調達が進められ、図書館及び食堂の方は、育友会会長で且つ県会議員であった宗行源治氏の御尽力により、県に於ても三者合併建築の議が承認せられることがになった。特に食堂は生徒集会所とし、一方、定時制完全給食の施設として設計せられた。定時制の職員生徒全員を収容し、完全給食が行われるよう工夫された。これらの構想は口では言い尽せない苦心のあったことと思われるが、要は全く、適役、適所、適機によって造られたものであって、もしこれが少しでも時機が遅れたならば、もう決して出来ない工事であったと思う。かくてその建築費も工事に即応して県、地元それぞれ分担支出することとなり、円満に竣工を見たのである。これは学校を後援する諸団体が眞に本校を愛する精神と技術があつて始めて出来ることであり、校長もまたこれを受けるにふさわしい人徳があつたからだと思うのである。

#### 四 旧雨天体操場の移転

旧雨天体操場は姫中時代に火災に逢い昭和十七年三月に再建せられたものであったが、新しく体育館が出来たので不要となつた。井内校長は体育実施の現状より見て、是非卓球その他の球技場として必要であることを力説し、全額県費を以つて移転することとした。

現形のまま曳行し、昭和四十二年三月三十一日移転完了し、外部の塗装等新築の様な美しい建物となり、現在も能率高く使用されている。経費は三百七十三万三千百余円を要したとのことである。

#### 五 旧講堂の移転

この講堂は格技場として昭和四十二年六月十五日、曳行移転、竣工したのであるが、井内校長もこの工事には随分苦慮されたもので私も相談を持ちかけられた。しかし私が最初全体計画を考えた時は戦後であり、剣道柔道等は教科として認められていなかつた。それで道場など全然考えていなかつたので、あなたの御意志通り決行するようにと答えた。

井内校長は、現在は柔剣道も課外教科として認められ是非道場を必要とし、且つ卒業生各位よりこの講堂は思い出の建物であり、是非保存し度いと強い要望があり、その意に応え度いと言う。当然のことであるが県はその要求を認めず、売却する意向であったようである。これを説得すると共に、移転するとすれば、校地の何処にどう言う形でするかに相当悩まされた様で、校地全体を運動場、旧雨天体操場、旧講堂、商業科教室、プール、コート等を如何に配置するかに苦労したのであつた。しかし育友会長の懇意と御協力を受け商業教室を残し、後の五者を非常に合理的經濟的に配置移転されたので、その卓見に全く感心したのであつた。特に旧講堂は入口が西側にあつたが移転後は東側となり、構造の転換をしなければならない。しかも旧態を変更しないよう種々工夫され、現在は武道場として旧講堂の威厳を保つことが出来た。卒業生各位も思い出の校舎として親しむことが出来るであろうと思う。

#### 六 プールの新設

昭和四十三年二月頃、県教委より四十四年度の県の事業として県立学校にプールを建設する考であるが、貴校の都合は如何、との照会があり、井内校長は予定地もあることなので早速受諾の旨回答し、コースを東西か南北か何れにするかについて色々考えていたが、土地の関係上東西コースをとることとした。

しかし実施を見ぬうちに退職されることとな

り残念であったことゝ思う。

## 七　運動場の整地及び諸施設

雑然としていた校舎を取除いた跡を全部運動場とするのであるが、これを如何に配置するかに就いては井内校長も色々考えた。私も意見を求められたが、氏は県とも相談し、あるいは専門家又は職員の意見をも聞いて、結局現在見る様に、大体大きく二分し、野球を主とする広場と、コート九面、国旗掲揚台防球ネットその他これに関連する諸施設をしたのであるが、県費四百十三万四千円を要した。これで運動関係の全ての施設が完成し、久しく不便を感じていた生徒達も大変喜んで盛んに球技類をやるようになったようである。これらの工事が完全に出来上り、金の支払も済んだのは昭和四十三年三月三十一日で井内校長が退職されるその日であった。

## 八　植樹及び造園

大体校地が整備されたので、井内校長は植樹及び造園をも考えられた。運動場周辺は自ら立案実施されたが、南校舎前の庭園は、私に設計監督して呉れなか、とのことであつたので御援助することにした。私の案は玄関より東側を一つの単位とし、枯山水の造園手法を取り入れ、中央に楓の主木で島を造り、

その周囲は芝生で池を示し、東西両端の植込みは陸地を暗示する考であり、色鉛筆で完成予想図を造り井内校長に提出した。賛同を得たので卒業生の父兄である庭師を呼び、三人立合で造庭の契約をした。庭師も、西校の目抜きの場所だから立派なものを造り度いと言つて、自ら四国まで行き大きな庭石を買集め、それを組立てたが、その時、学校の事情で経費が予算の半額過ぎより出せない事となり、石組だけで中止の止むなきに至った。井内校長も非常に恐縮し、庭師に詫びを申入れた。しかし楓の主木も、大きな根／もなく、両端の植込も仮植のままとなり、全く庭の体裁をなさないことになった。私も最初の案とは余程形の違ったものになり、申訳ないと思つた。その後柴垣氏がこの事情を知り、大変なお骨折で白城会の有志の方々にお願いし、楓の木二本を植えて戴いた。これで少しは設計に近づいたので井内校長も地下で感謝して居られることであろう。

以上は井内校長在職中の業績を日を追つて列挙したのであるが、校長としては校内に建築その他の工事のある間は、少しも心を休める暇がなく、何れも苦勞の種である。これが現在の如く全部具費で施行せられる場合は幾分楽であるが、地元負担で実施する場合は特に多くの気苦労があるのである。しかるにどの工事も何の問題もなく、極めて満足に早くしかも立派に成就したことは、地元各団体各位の非常な理解と援助によるものであるが、校長の人徳も亦大いに与つて力あつたことである。井内校長は豪放磊落の様であるが、反面ことを決するに極めて細心緻密であり、人に接するに非常に鄭重であった。又後援の関係各位を始め、職員をも絶対信頼し、全責任を持って思う存分力を發揮させると言ふ、経営者としての資質美点を持つて居られた。この特性が、関係各位が献身的に学校建設に尽された所以であると思い、今更の如く感激を深くするのである。

嗚呼、井内校長、貴兄は既に亡い。余りにも天逝であった。まだ為すべき事柄も多く、為し得る体力も持つて居られた。しかるに教育長の無理、学校長の無理が兄を早く奪つたのであろう。愛別離苦、会者定離は人間の宿命である。これは如何ともし難い。しかし、西高校には兄の大きな業績が永久に残つている。また御家族に於ては令閨始め子や孫様達は朝夕の勤行に、経を誦し、後生善所、安樂菩提を祈念しつつある。兄の温容は既に見ることを得ないが、靈魂は決して消滅しない。願わくば、殘る現世衆生の營みを照覽し、厚き冥加を垂れ給わんことを。

合掌

# 母校職員の異動

(昭和48年度)

▽離任された先生

お名前

転出先

原 八郎 (社) 松陽高校  
田中秀治 (数) 生野高校  
田中照晃 (理) 出石高校  
香山昭子 (英) 福崎高校  
矢内てふ (用務員)

△来任された先生

お名前 前任教諭

津田 実 (理) 県教委  
百合義信 (理) 福崎高校  
絹川正義 (数) 三木高校  
進藤俊雄 (英) 北条高校  
武藏敏子 (用務員)

表紙の写真は、西高12回永井しょうじ氏の作品です。

(関西肖像写真家グループ  
日本肖像写真家協会)

# 姫中西高野球部

## O B会の集り

### 第一回定期演奏会のお知らせ

吹奏楽部O B会は、かねてより希求しておりましたO B演奏会を、会員一同の熱意により、八月十二日、姫路市文化センターにおいて公演のはこびとなりました。

夏の大会も後一月になり新聞紙上にチームの紹介が掲載され応援も年々に華麗になってきました。生徒時代若き血を燃やした我々O Bにとって、この季節がくるとジットしておれず恒例のO B会を開催し想い出を自己紹介で発表し野球馬鹿になりました。皆のサンボール片手に又の再会を期し応援歌「鷺山の秋」を高唱し母校野球部の健斗を祈り散会しました。尚当日の予剰金で僅少ですがボーナルを贈呈しておきましたので紙上を借りて報告に代えます。明年のO B会は現役と一戦交えたいので、西高O Bの多数の参加がないと挙行出来ませんので奮って出席願います。当日の出席者は左記のとおりです。

27回水田弥太郎 33回芥田武夫 34回淵岡美士磨 36回円羽勇 41回末永幸治 48回釣常雄 48回渡辺武夫 48回本谷祥 49回長尾俊郎 49回塙見一郎 50回中塚清雄 51回佐藤文太郎 西5下村唯雄 西9橋本良春  
西23衣笠寛

日時 八月十二日 午後二時半 開演  
場所 姫路市文化センター 小ホール  
曲目 ゴッド・ファーザー、チャーチルシーグ  
曲、太神樂、その他

入場無料 整理券を必要とします。(請求)

先姫路市の形町的形二八〇(養老憲二)

尚、会員諸兄諸姉への連絡は万全を期したつもりですが、神ならぬ人のゆえ、手抜かりがあるうと思います。その節は恐れ入りますが、お申し出下さい。  
では迷演、怪演に乞御期待。  
ところ とき 昭和四十八年六月二十四日午後二時  
ところ 百楽でした。(塙見午)

## 昭和四十七年度

### 白城会総会報告

昭和四十七年度の白城会総会は八月十三日

(日) 午後三時より、母校の白城会館で盛大

に行なわれました。本年は新理事長として、

竹田二朗氏(姫中45回)を迎へ、役員の構成

も新に、発展的発足をいたしました。新理事

長の「和」の精神に基づいた「姫中・西高卒

業生の同窓会」「母校と同窓会の協力」等の

力強い挨拶の後、物故会員の冥福を祈り、会

務会計等の報告後、京都女子大学長・結城令

聞先生(姫中32回)より「姫路城と宮本武蔵」

と題し、剣豪の道を、剣の達人より見た、興

味溢れる話を伺いました。宴会の席は本年は

新理事長の新構想で例年のセセコマしい三階

を止め、一階の生徒集会場(食堂)を利用して

せていただき、広々とした所で、涼しい風に

吹かれながら、和やかな交歓風景が堂に満ち

て居ました。西高卒業の若々しい女子会員の

一団がテーブルを開き、会場に華をそえ、じ

いさん連中に活を入れて居る光景は、まこと

にはほえまいものです。今後も例年、この

ような光景の見られますよう、女子会員が振

つて参加下さることを祈つて止みません。

末筆ながら本総会の運営にご尽力をいたしました各方面の方々に厚くお礼申し上げます。なお、新役員名簿はつきの通りです。

### 白城会役員

(昭47・8現在)

(敬称略)

理 事 事	常 務 理 事	母 校 内	理 事 事	監 理 事	副 理 事 長	顧 問	栗 田	竹 田	二 期	禪 垣	柴 垣	岡 本	德 治 郎	武 夫	東 大	栗 田	東 大	空 地	純 一	24
山井下	鷢川橋	西岡	米田江口	柳谷妻鹿健	木村北沢	柴垣登	泉石坂	岡川口	福山	蟹江俊一郎	福山	岡本	德治郎	武夫	東大	栗田	東大	空地	純一	24
数代西	晏弘義康	平八	徳次一司	次郎守	豊明義	善一	隆義	了二	賢西	了二	了二	高倉基	龍田謙三	成	成	三宅	三宅	空地	純一	24
14	5	9	14	13	9	2	55	48	42	38	32	6	53	40	34	45	13	空地	純一	24
家永	善文	下村貢	福永美津子	初井史郎	佐藤幸子	島津久子	内山	斎木	村山	尾田長谷川	松本旭	高倉基	龍田謙三	成	成	三宅	三宅	空地	純一	24
10	10	59	13	10	7	5	3	57	51	47	40	36	12	1	49	47	13	空地	純一	24

### 昭和47年度白城会会計報告 (自昭46.8.1) (至昭47.7.31)

項 目	収 入	支 出	残 額
一般会計	5,020,362	3,366,449	1,653,913
白城会館運営	153,155	0	153,155

上記監査の結果正当なものと認めます。

昭和47年8月10日 監査 岡本徳治郎  
監査 龍田謙三

以上の通り報告いたします。

昭和47年8月13日

## 白城会総会ご案内

### 「維持会費」納入

についてのお願い

編集を  
終えて

昭和四十八年度白城会総会を左記の通り行ないますので多数の会員の方のお集りをお待ちします。年を経る毎に、盛大で内容の充実した会合に盛りあげて行きたく存じます。

姫中、西高の卒業生の方々、同窓一堂に会し、老若を越え、和らぎの場をつくり下さり。なお、準備の都合もありままでの出欠のご連絡を頂きますようお願いいたします。（同封葉書にて是非ご連絡下さい。）

日時 昭和四十八年八月十二日（日）  
午後三時より

場所 母校内 白城会館

会費 一、〇〇〇円（但し西高二十二回～二十五回生は五〇〇円）

講演 田中喜樹氏（西高十七回卒・東京製綱K・K勤務）

テーマ「ヒマラヤ登山」

門脇政夫氏（姫中四十回卒・現奇術 県会議員）

受付 午後二時三十分より（会場入口にて）

現在本会の会計は従来よりの「積立金」と母校姫路西高校在校生が日々分納入している「入会金」と、卒業生会員の納入される「維持会費」とで維持されています。卒業生の会員の皆様からは「維持会費」として、年額百円ずつ送付頂きたいのです。新入生の入会金のみに頼るのは甚だ心苦しいものです。同窓の方々もふるって「維持会費」をご送付下さいまして、私達の白城会を充実した会に盛り上げて頂きたく存じます。

「維持会費」は三年に一回、三百円を納入して頂くことにしております。未納入の方は是非とも会費納入をお願い申し上げます。同封の振替用紙でご送付下さい。諸般の事情ご明察の上送金頂きますようお願い申し上げます。

なお、本年度総会において維持会費を年額三百円に値上げする案を提出する予定です。物価の著しい高騰で本部会計の窮状ご賢察賜わり、よろしくお願ひします。

No.10 昭和48年7月

題字は空地純一氏

### 白城会本部

姫路市伊伝居678  
(郵便番号670)

姫路西高等学校内  
理事長 竹田二朗  
編集人 橋川義康  
晏弘家永善文

印刷所

明輝堂印刷  
姫路市総社本町81

白城会通信も数えて十号、毎年のことながら、校内理事一同、その原稿集め、編集、発送に泣かされます。そこで今年は一度休んでみては……との意見もチラホラ、しかし、中には毎年これが楽しみだという人もいっぱいあるとか。毎年これが出来るから、顔を合わせたり、母校を訪れる事ができなくとも同窓生の心がつながっているのだと、これまでナカセル意見も出、そんじゃあ、ということできたのがこれ。  
今年は、同窓生のつながりをいつそう密にということで『各回だより』を特集いたしました。今年載せられなかった回は、来年はぜひ載せたいと思っていますので、幹事さん方よろしく。

